心理福祉学科

白川 充
志水 田鶴子
山崎 洋史
渡邊 兼行

家子 敦子
郡山 昌明
中嶋 みどり
茂木 千明

結城 裕也
高田 洋平
三浦 和夫
吉田 弘美

自己点検表

教員個別表

フリガナ シラ カワ ミツル 氏名 白川 充	職名 教授 人間学部 心理福祉学科	取得学位 社会学修士 (大学名) 東北福祉大学 (取得年月) 1984年3月
---------------------------	----------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績(2019.4~2024.5)

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
1. リアクションペーパーによる授業理解度と質問内容の把握	2004~ 現在に至る	講義科目は、授業展開と受講者数の関係で、教員側からの説明、解釈を伝えることが中心である。そこで、LMS を活用しリアクションペーパーに、①「理解できたこと」、②「理解できなかったこと・感想」を提出してもらうことにより、授業内容に関する学生理解を把握している。 また質問については、同じくLMSを活用し次回の授業内容とともに回答を付けた PowerPoint を掲載し、さらに授業の中で解説するようにしている。
2. 「心理福祉総合演習Ⅰ～Ⅳ 白川ゼミ報告書」の作成	2021.4~ 現在に至る	3年、4年の白川ゼミ(授業名:心理福祉総合演習Ⅰ～Ⅳ)の報告書をまとめている。内容としては、1年間のゼミ活動の総括と、ゼミで取り組んだ3・4年共通課題の成果、3年のゼミ論、4年の卒論である。

(2) 過去5年間の研究業績(2020.4~2025.5)

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数

[著書] 1. ソーシャルワークの基盤と専門職	共著	2021. 1	ミネルヴァ書房	白川充他	空閑浩人、白澤正和、 和気純子編著	133－148 頁
[その他] 1. 福祉専門職養成における ICT 活用教育の課題	共著	2021. 12	日本社会福祉教育学会誌(第 24号)	白川充他	保正友子、池田雅子、 佐藤貴之	35－58 頁
2. 社会福祉施設におけるレジデンシャル・ソーシャルワーク(Residential Social Work)の構想と定着に関する実証的研究－母子生活支援施設の機能強化を中心に－(研究報告書)	共著	2022. 11	全国母子生活支援施設協議 会・日本ソーシャルワーク学会 による施設ソーシャルワーク に関する共同研究会	白川充他	白川充、菅田賢治、芳 賀恭司編著	29－30 頁 35－42 頁 62－65 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共著の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月	発表場所
1. 福祉専門職養成における ICT 活用教育の課題(コーディネーター)	2021. 6	日本社会福祉教育学会 第 17 回大会 学会企画シンポジウム(オンライン開催)
2. 母子生活支援施設におけるソーシャルワーク実践の枠組みとその構築のための検討(1)－A 施設を退所した 14 事例の分析と考察－	2022. 7	日本ソーシャルワーク学会 第 39 回大会 自由研究報告(オンライン開催)

3. 母子生活支援施設におけるソーシャルワーク実践の枠組みとその構築のための検討(2)－母子支援員へのインタビュー調査－	2022. 7	日本ソーシャルワーク学会 第 39 回大会 自由研究報告(オンライン開催)
4. 「座談会:学会創立 50 周年を展望する 第 1 部・日本ソーシャルワーク学会の沿革と活動と今後の展望、第 2 部・指定討論者の発題(学会活動の評価と要望)」(コーディネーター)	2023. 7	日本ソーシャルワーク学会 第 40 回大会 記念企画(東北福祉大学)
5. 「住民主体のまちづくり」を先駆的に進めた山形県市町村における地域住民のエンパワメントと新しい包括的支援システムの構築」(コーディネーター)	2025. 2	日本ソーシャルワーク学会「ソーシャルワークコラボセミナーin 山形」(山形テルサ)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会福祉学会		1983
日本ソーシャルワーク学会	2012. 4～2028. 7 学会理事	1995
日本社会福祉教育学会	2014. 10～2017. 9 学会理事 2020. 6～2026. 6 学会理事(副会長)	2006

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)

--	--	--	--	--

3. 特記事項

(講演会・講習会等)

1. 社会福祉士・精神保健福祉士 実習担当教員講習会(講師)(2015～2018)

(社会的活動)

1. 社会福祉法人仙台いのちの電話 評議員(2010.12～2025 定時評議員会)
2. 日本社会福祉学会 学会機関誌査読委員(2018.1～2025.12)
3. 社会福祉士及び精神保健福祉士試験委員(2019.5～2022.4)
4. 全国母子生活支援施設協議会 協議員(2021.4～2023.3)
5. 学校法人白百合学園 評議員(2025.4～2028.3)

(大学の運営管理上の実績)

1. 総合福祉学科 人間福祉専攻主任(2007.4～2009.3)
2. 学生部長(2009.4～2013.3)
3. 教務部長(2013.4～2014.3)
4. 人間学部長(2014.4～2016.3)
5. 心理福祉学科長(2016.4～2017.3)
6. 人事計画委員会 委員長(2019.4～2021.3)
7. 教務部長(2021.4～2024.3)
8. 人間学部長(心理福祉学科長兼務 2024.4～2025. 3)(2024. 4～2026.3)

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	シミズ タツコ 志水 田鶴子	職名 人間学部	教授 心理福祉学科	取得学位 (大学名)	博士(ソーシャルワーク) 東洋大学大学院	(取得年月) 2025年3月
------------	-------------------	------------	--------------	---------------	-------------------------	-------------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
精神保健福祉士養成の実習・演習カリキュラムにおけるカスタマーティーチャーの活用に関する研究を行った	2005.1～現在	精神保健福祉士養成の実習・演習カリキュラムを効果的に運用するために、施設利用者・実習指導者・教員が学生に対して指導を行うプログラムを作成した。演習でのロールプレイに施設利用者に参加するカスタマーティーチャーを導入し、学生への指導を施設利用者にも担ってもらう教育体制を構築した。この取り組みについては、「社会福祉士養成校における実習・演習カリキュラムの具体的展開に関する研究-実習先施設利用者・職員・教員の協働によるプログラム作成及び試行をふまえて」, 仙台白百合女子大学紀要 2004, 第9巻に発表した。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
社会とのつながりが途切れやすい高次脳機能障害者とソーシャルワーク支援に関する研究—就労継続支援 B 型事業所への通所継続促進支援を軸にして—	単著	2025.3	東洋大学大学院 博士論文			1-230
高次脳機能障害者の就労継続支援 B 型事業所の通所継続のプロセス	単著	2024.3	東洋大学、東洋大学大学院紀要(第60集)			173-188
社会とのつながりが途切れるプロセス—高次脳機能障害者を対象とした複線経路・等至性モデル(TEM)分析を通して—	単著	2021.3	一般社団法人日本社会福祉学会 関東部会 社会福祉学評論(21)			117-127

[著書] どこでも誰でもできる 地域づくりハンドブック 介護 保険における生活支援体制整備事業のすすめ方	共著	2019.1	中央法規出版	柳史生 志水 田鶴子,大坂 純	柳史生 3名	16-47
実習指導必携 プロソーシャルワーク入門	共著	2018,11	八千代出版	中畠洋,志水 田鶴子,大塚 一郎,市川享 子,大倉高志, 宮元預羽,大 賀有記,横山 順一	中畠洋 7名	16-21 24-27 100-103 119 135

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
無						

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
無		
無		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会福祉学会		1999
日本職業リハビリテーション学会		2000
日本医療社会事業学会		2002
日本地域福祉学会		2003
日本老年社会科学会		2003

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
文部科学省	2018.4～2022.3	2018 年度科学 研究費補助金 (基盤研究C)	生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターと協議体のあり方に関する研究	1,600,000

3. 特記事項

2021 年度 東北文化学園大学医療福祉部 保健福祉学科 非常勤講師
 2021 年度 東北子ども福祉専門学院 非常勤講師
 2021 年度 宮城県都市計画審議会委員
 2021 年度 宮城県福祉有償運送運営協議会委員
 2021 年度 仙台市立病院治験審査委員
 2021 年度 社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鉤取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員
 2021 年度 塩釜市地域支えあい推進協議体 委員長
 2021 年度 富谷市介護保険運営委員会委員
 2021 年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員・研修講師

 2022 年度 東北文化学園大学医療福祉部 保健福祉学科 非常勤講師
 2022 年度 東北子ども福祉専門学院 非常勤講師
 2022 年度 宮城県都市計画審議会委員
 2022 年度 宮城県福祉有償運送運営協議会委員
 2022 年度 仙台市精神保健福祉審議会委員
 2022 年度 仙台市立病院治験審査委員
 2022 年度 塩釜市地域支えあい推進協議体 委員長
 2022 年度 富谷市介護保険運営委員会委員
 2022 年度 石巻市社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー
 2022 年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員・研修講師
 2022 年度 社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鉤取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員

2023 年度 東北文化学園大学医療福祉部 保健福祉学科 非常勤講師
2023 年度 東北子ども福祉専門学院 非常勤講師
2023 年度 宮城県都市計画審議会委員
2023 年度 宮城県福祉有償運送運営協議会委員
2023 年度 仙台市精神保健福祉審議会委員
2023 年度 仙台市立病院治験審査委員
2023 年度 塩釜市地域支えあい推進協議体 委員長
2023 年度 富谷市介護保険運営委員会委員
2023 年度 石巻市社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー
2023 年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員・研修講師
2023 年度 社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鉤取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員

2024 年度 東北文化学園大学医療福祉部 保健福祉学科 現代社会学科 非常勤講師
2024 年度 東北子ども福祉専門学院 非常勤講師
2024 年度 宮城県都市計画審議会委員
2024 年度 宮城県福祉有償運送運営協議会委員
2024 年度 仙台市精神保健福祉審議会委員
2024 年度 仙台市立病院治験審査委員
2024 年度 塩釜市地域支えあい推進協議体 委員長
2024 年度 富谷市介護保険運営委員会委員
2024 年度 石巻市社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー
2024 年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員・研修講師
2024 年度 社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鉤取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員

2025 年度 東北文化学園大学医療福祉部 保健福祉学科 現代社会学科 非常勤講師
2025 年度 宮城県都市計画審議会委員
2025 年度 宮城県福祉有償運送運営協議会委員
2025 年度 仙台市精神保健福祉審議会委員
2025 年度 仙台市立病院治験審査委員
2025 年度 塩釜市地域支えあい推進協議体 委員長
2025 年度 富谷市介護保険運営委員会委員
2025 年度 石巻市社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー
2025 年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員・研修講師
2025 年度 社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鉤取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名 ヤマザキ ヒロフミ 山崎 洋史	職名 教授	取得学位 博士(海洋科学) (大学名) 東京海洋大学 (取得年月) 2013年3月
	人間学部 心理福祉学科	取得学位 博士(宗教学) (大学名) 國學院大學 (取得年月) 2020年3月

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
① 教育内容・方法の工夫 ・プロジェクト・ベースト・ラーニング(世田谷区連携プロジェクト名) 「世田谷区 若者のこころの居場所 アイリス」 ・「教育心理学」(2年次)授業におけるロールプレイング 及びフィードバック、アクティブラーニング ・心理学ピア・ラーニング合宿	2015年4月～ 2021年3月迄 2008年4月～ 2021年3月迄 2017年4月～ 2021年3月迄	東京都世田谷区長及び子ども若者部と、大学山崎研究室の地域連携プロジェクト。 文科省提唱から始まる「心の居場所」「若者の居場所づくり」として、世田谷区分庁舎(三軒茶屋)一室を委嘱され、週2回「若者のこころの居場所 アイリス」と命名し地域の高校生から25歳までの女性対象の各発達に応じた心の居場所づくり企画・運営。 臨床心理専攻の大学院生がボランティア活動の一環として運営。 (instagram : https://www.instagram.com/iris_ibasyo/?hl=ja) (X : https://x.com/irits_sancho) 「教育心理学」(2年次)の授業において、ロールプレイ、ゴールセッティングエクササイズ、セルフモニタリングを実施。各発達段階における理論と学習支援体験。 人間関係ゲームによるグループ合宿を年に2回・2泊3日の大学研修施設で企画・実施。心理学的集団体験及びピア・フィードバックを中心に、学生によるテーマ・エクササイズ等自主企画合宿を実施。大

<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・サービス・ラーニング 「心理支援 CSL」 	<p>2011年4月～ 2021年3月迄</p>	<p>学よりプロジェクト予算獲得。</p> <p>東京都区市教育委員会・神奈川県市教育委員会・国立青少年センター等と連携し、21自治体・団体における学生ボランティア経験を授業単位とした。</p> <p>フィードバック、シェアリング、プレゼンテーションを毎年実施。不登校支援、学修支援などを通じた心理支援の実際（コミュニティボランティア）。年末に学生・自治体・教員参加の成果発表会を実施し成果のシェアリングを実施。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「臨床心理学」（3年次）・「臨床心理学概論」（2年次）授業における ZOOM 遠隔ロールプレイング及びフィードバック 	<p>2020年4月～ 2021年3月迄</p>	<p>コロナ禍中で導入された大学リモート授業（ZOOM）において、カウンセリング面接ロールプレイ及びフィードバック、シェアリングを実施。ブレイクアウトルーム及びチャット、投票機能等などの活用による双方向スキル学習の深化。学生からの評価が極めて高かった。アフターコロナの授業における大きな示唆が得られた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「教育実践演習（中高）」授業における 宮城県公立小中学校教育指導者との協働学習 ・アクティブラーニング 	<p>2021年4月～ （現在に至る）</p>	<p>宮城県小中学校で指導的立場にある教育委員会指導主事・教諭・管理職による協働学習の実施。学校教育現場における効果的実践と、模擬体験を通じた児童生徒ロールプレイによる気付き促進とモチベーションの向上を企図したアクティブラーニング。</p> <p>学校教育に対する具体的イメージの醸成の視点から学生の評価が極めて高い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「心理調査概論」授業における 東北大学学部・大学院学生（理系）との協働学習 ・ピア・ラーニング 	<p>2023年4月～ （現在に至る）</p>	<p>「心理支援」を深化させるためのベースライン・アセスメントにおいて、心理調査法（科学的アプローチ）を深化させることは極めて重要である。本学文化系学部の心理福祉系学だけではなく、東北大医学・工学などの理系学部・大学院生との協働学習の実施。問題の明確化、先行研究リサーチ、仮説設定、調査項目の精選、-googleフォームによる調査実施、多変量解析、高圧に至る、科学的リサーチの方法のアクティブラーニング。</p> <p>理系学生のデータと技術を用いた心理福祉上の課題解決に取り組</p>

<p>② 作成した教科書（一部再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育の最新事情」（共著） ミネルヴァ書房 ・「学校教育とカウンセリング力」（単著）学文社 ・「新はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学」（共著）学文社 ・「児童心理 子供の心をつかむ先生「その場に合った自己開示のできる先生」（共著）金子書房 ・「学校教育相談の理論・実践事例集 いじめの解明 学校コンサルテーションの展開」（共著）第一法規 ・「救助人材育成ガイドライン」（有識者執筆協力）総務省消防庁 ・「訓練効果を高めるための救助訓練指導マニュアル」（有識者執筆協力）総務省消防庁 ・「多様化する救助事象に対応する救助体制のあり方に関する高度化検討会（救助人材育成）報告書」（有識者執筆協力）総務省消防庁 <p>③ 教育方法・実践に関する発表、講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育技法」講演、全国自治体において多数 	<p>2009年 8月</p> <p>2009年 11月</p> <p>2017年 4月</p> <p>2018年 9月</p> <p>2021年 3月</p> <p>2023年 3月</p> <p>2023年 3月</p> <p>2023年 3月</p> <p>年間数十回</p>	<p>みに対しての気づきの視点から学生の評価が極めて高い。</p> <p>教員免許状更新講習講座 講師「教育の最新事情」</p> <p>学校教育における児童・生徒・教師に対する心理支援</p> <p>心理学概論書</p> <p>小学校教職員対象の教書。クラス運営における教師の自己開示の重要性に関する内容</p> <p>教職を目指す学生及び、学校教職員対象の教書。いじめ対応に関する学校コンサルテーションの展開に関する概論。</p> <p>消防隊員教育における救助隊長としてのマインドや、現場・訓練指導における理想的な救助隊長像をもとにした指導ガイドライン</p> <p>消防隊員教育における訓練効果を高めるため救助訓練指導の流れ、隊員の主体性を高める訓練指導のポイント、効果的な振り返り手法指導マニュアル</p> <p>「救助人材育成ガイドライン」「訓練効果を高めるための救助訓練指導マニュアル」及び動画の活用の周知、全国の救助隊長及び救助隊員の育成に関する実態、課題及びニーズの把握と共に、必要な見直しを行いながら、時代に即した救助人材の育成について、検討していくこと。および、消防大学校と協働して、救助人材の養成及び育成に努めること。などの育成マニュアル・ガイドラインの概説。</p> <p>全国各自治体（総務省消防庁・法務省・教育）初級・中級・上級幹部対象講演、「教育技法」「発達に関する理解」他</p>
---	---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 都県教育委員会、市教育委員会等における教員研修等 ・ 学会ワークショップにおける講演多数 <p>ex. ワークショップ (2023 年) 「学校教育相談実践を、心理学論文 (科学論文) に仕上げる方法 ー現場に応じた素晴らしい実践活動の成果を次世代に繋いでいく ためにー</p> <p>ex. 講演 (2023 年) ・ 「人を育てるための教育技法ー救命救急セミナー」</p> <p style="text-align: right;">他 多数</p>	<p style="text-align: center;">”</p> <p>2023 年 8 月</p> <p>2023 年 9 月</p>	<p>学校管理職研修、現職教師対象講演「認知行動的セルフモニタリング」「メンタルヘルス」「認知教育」「心理教育」等</p> <p>日本学校教育相談学会、国家資格キャリアコンサルタント、産業カウンセラー、他、「教育心理学」「臨床心理学」「心理教育」「心理アセスメント」「認知行動療法」等</p> <p>日本学校教育相談学会 第 35 回総会・研究大会 (新潟大会)</p> <p>第 41 回福岡救急医学会 学術集会 電気ビル共創館 (福岡市天神)</p> <p style="text-align: center;">”</p>
--	--	--

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
<p>〔著書〕 青年期食行動異常と認知行動的セルフモニタリング</p>	単著	2015 年 7 月	学文社 JSPS 科学研究助成事業 (科学研究費補助金) (研究成果公開促進費) (心理学分野 学術図書)			
<p>児童心理小学一・二年生の家庭教育こんなとき どうする?具体例と対処法「朝になると登校を渋 ります」</p>	共著	2016 年 3 月	金子書房		有村久春 他	102-105 頁
<p>新はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学 第 2 章 知ることの過程</p>	共著	2017 年 4 月	学文社	吉武光世 他		17-50 頁

1. 認知のメカニズム 2. 記憶システム 第3章 心の発達 1. 発達のとらえ方 第7章 こころを診る 9-4. 認知行動療法						94-110 頁 195-201 頁
児童心理 子供の心をつかむ先生 「その場に合った自己開示のできる先生」	共著	2018年 9月	金子書房		有村久春 他	25-31 頁
学校教育相談の理論・実践事例集いじめの解明 「学校コンサルテーションの展開」	共著	2021年 3月	第一法規		今井五郎 他	3-14 頁
新版 訓練指導・統制マニュアル	有識者 協働	2021年 6月	東京法令出版	東京消防庁		第1部
宗教と認知行動的セルフモニタリング －青年期の適応を通じて－	単著	2022年 3月	学文社 JSPS 科学研究助成事業 (科学研究費補助金) (研究成果公開促進費) (心理学分野 学術図書)			
救助人材育成ガイドライン	有識者 協働	2023年 3月	総務省消防庁	総務省消防庁		
訓練効果を高めるための 救助訓練指導マニュアル	有識者 協働	2023年 3月	総務省消防庁	総務省消防庁		
〔論文〕						
コミュニケーション活動を取り入れたキャリア デザインサポートの研究 －体験的科目参加前後における学生の教職へ の意識及び共感性検討－ (査読付)	共著	2015年 3月	学苑(893号), (昭和女子大学)	岩瀧大樹		77-85 頁

発達障害を抱える女子生徒の学校適応過程に関する事例研究 －中学校教育相談室での2年間の支援から－ (査読付)	共著	2015年3月	生活心理研究所紀要17, (昭和女子大学)	岩瀧大樹 他	37－43頁
大学生のキャリアデザインサポートに関する研究Ⅱ －目標達成方略に焦点を当てた探索的検討－ (査読付)	共著	2015年4月	群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編第64巻, (群馬大学)	田島祐奈 他	23－34頁
教職志望学生のメンタルヘルスに関する研究 －教育実習事前におけるサポートの検討－ (査読付)	共著	2015年4月	群馬大学教育実践研究(第32号) (群馬大学)	岩瀧大樹	49－58頁
集団宿泊体験による学校移行に関わる不適応予防の検討Ⅰ －複数の小規模小学校を対象とした合同事前介入の試験的実践－ (査読付)	共著	2015年8月	教職研究(第25号), (立教大学 教職課程)	岩瀧大樹	97－108頁
女子大学生における進路選択に対する自己効力及び社会人基礎力の研究 (査読付)	共著	2016年2月	学苑 人間社会科学部紀要(第904号) (昭和女子大学)	田島祐奈 他	10－20頁
コミュニケーション活動を取り入れたキャリアデザインサポートの研究Ⅱ －子どもへのサポート体験を通じた学生のリーダーシップおよび協働作業に対する意識の変容 (査読付)	共著	2016年3月	群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編第65巻, (群馬大学)	岩瀧大樹	25－36頁
スクールカウンセラーによるLD傾向の男子中学生への援助事例研究	共著	2016年4月	教職研究28, (立教大学 教職課程)	岩瀧大樹	47－59頁

<p>ー学習サポートおよび学級担任とのコンサルテーションを中心にー (査読付)</p>					
<p>青年期版不器用さの自己認知尺度作成の試み ー運動経験と過去・現在の自己認知の検討ー (査読付)</p>	共著	2016年10月	群馬大学教育実践研究(34号)(群馬大学)	林由紀子 他	17-26頁
<p>進路選択における自動思考と対処行動が進路選択自己効力に及ぼす影響 (査読付)</p>	共著	2017年2月	学苑 人間社会学部紀要(916), (昭和女子大学)	田島祐奈 他	1-11頁
<p>宗教観と青年期適応に関する研究 ー宗教観・信仰の有無と適応感・アイデンティティ確立の因子間相関ー (査読付)</p>	単著	2017年2月	國學院大學大学院紀要 ー文学研究科ー第48号 (國學院大學)		61-77頁
<p>青年期の不器用さの自己認知 ーコミュニケーション・スキルおよび適応感との関連ー (査読付)</p>	共著	2017年3月	生活心理研究所紀要19 (昭和女子大学)	林由紀子 他	71-82頁
<p>大学生のキャリア形成過程における Planned Happenstance Skills と精神的健康度の関連 (査読付)</p>	共著	2017年3月	群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編66巻 (群馬大学)	田島祐奈 他	31-40頁
<p>青年期の昇進意欲尺度作成の試み ー男女差に着目してー (査読付)</p>	共著	2018年1月	群馬大学教育実践研究第35号(群馬大学)	渡邊洋子 他	27-36頁
<p>心理的居場所感が対人ストレスコーピングに与える影響 ー青年期のシャイネスに注目してー (査読付)</p>	共著	2018年1月	群馬大学教育実践研究第35号 (群馬大学)	渡邊美咲 他	37-48頁

宗教観と青年期適応に関する研究 －宗教観認知行動的変数およびストレスコーピングに関する相関研究－ (査読付)	単著	2020年2月	國學院大學大学院紀要 －文学研究科－第51号 (國學院大學)			25－44頁
宗教と認知行動的セルフモニタリングに関する研究	単著	2020年3月 (2021年4月)	國學院大學大学院文学研究科神道学・宗教学専攻 博士学位論文 2021年度 JSPS 科学研究助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)(心理学分野 学術図書)決定(再掲)			
心理的居場所が過剰適応傾向に及ぼす傾向 (査読付)	共著	2020年3月	生活心理研究所紀要22 (昭和女子大学)	三浦はるか		47－58頁
心理専門家への援助要請行動を阻害する認知構造モデルの検討 －完全主義認知と恥感情に着目して－ (査読付)	共著	2021年3月	生活心理研究所紀要23 (昭和女子大学)	松田琴音		87－102頁
コロナ渦における不登校支援に関する研究 －遠隔授業(Zoom 利用)による学校不適応感の向上－ (査読付)	単著	2022年6月	学校教育相談研究 第31号 (日本学校教育相談学会)			1－8頁
スピリチュアリティの変化とスピリチュアルペイン減少の相関について (査読付)	共著	2024年6月	印度学宗教学会論集第50号	徳増平、 谷山洋三		140-114頁
スピリチュアリティと認知行動的セルフモニタリングに関する研究 ー宗教観構造の因子分析(主因子法 Promax 回転)による再検討ー (査読付)	単著	2025年3月	人間学研究センター紀要第2号(仙台白百合女子大学)			11－19頁

学校教育相談における第三世代認知行動的カウンセリングに関する基礎的研究—スピリチュアリティ認知構造の因子分析(最尤法 Promax 回転)による再検討—	単著	2025年6月	学校教育相談研究 第35号 (日本学校教育相談学会)			16—24頁
--	----	---------	-------------------------------	--	--	--------

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
ストレス認知理論を用いた高齢者家族介護者の心理的因果モデルの検討—ソーシャルサポートと家族機能に着目して—	2015年5月	第16回日本認知症ケア学会大会 (北海道医療大学)
宗教観がアイデンティティ確立と適応に及ぼす影響	2015年9月	宗教研究第88巻別冊 第73回学術大会紀要 日本宗教学会 (同志社大学)
宗教観が青年期適応に及ぼす影響—集団的および個人的認知変数—	2016年9月	宗教研究第89巻別冊 第74回学術大会紀要 日本宗教学会 (創価大学)
宗教観と青年期適応に関する研究—認知行動的変数相関—	2017年9月	宗教研究第90巻別冊 第75回学術大会紀要 日本宗教学会 (早稲田大学)
学内運動を促進する大学システムの構築に関する考察—大学管理職としての全学的学生支援システムの改善と確立—	2018年5月	第36回日本学生相談学会 (関東学院大学)
宗教観が青年期適応に及ぼす影響—主観的幸福感とストレス—	2018年9月	宗教研究第91巻別冊 第76回学術大会紀要 日本宗教学会 (東京大学)
日本学校教育相談学会発足30周年シンポジウム記念企画 学校教育相談30年の歩み—その未来を展望する— 企画・シンポジスト講演	2018年8月	第30回日本学校教育相談学会総会・研究大会(東京大会) (昭和女子大学)
学内運動を促進する大学システムの構築に関する考察—全学的学生支援システム構築と大学におけるHR担当教員(クラスアドバイザー)	2020年5月	第38回日本学生相談学会 (九州大学)

<p>ザー)制度ー</p> <p>宗教と青年期適応に関する研究 ー個人認知変数と抑うつスキーマー</p> <p>宗教と認知行動セルフモニタリングに関する研究 ー臨床事例研究ー</p> <p>宗教の認知行動的適応御支援における役割 ー効果要因分析から見えてくるものー</p> <p>宗教と認知行動的セルフモニタリングに関する研究 ー心理支援における宗教の役割と可能性ー</p> <p>宗教と認知行動的セルフモニタリングに関する研究 ー心理支援上の宗教の役割ー</p> <p>スピリチュアリティと認知行動的セルフモニタリング</p> <p>宗教と認知行動的セルフモニタリングー学生相談におけるスピリチュアリティの意味付けー</p> <p>スピリチュアリティと認知行動的セルフモニタリング(第3世代)</p> <p>修祓・大祓詞体験による感情・気分及びスピリチュアリティ的認知変容に関する研究</p> <p>修祓・大祓詞祈禱体験によるスピリチュアリティ認知変容に関する研究</p>	<p>2020年9月</p> <p>2021年9月</p> <p>2022年12月</p> <p>2023年5月</p> <p>2023年9月</p> <p>2024年5月</p> <p>2024年5月</p> <p>2024年9月</p> <p>2024年12月</p> <p>2025年5月</p>	<p>宗教研究第93巻別冊 第79回学術大会紀要 日本宗教学会 (駒澤大学)</p> <p>宗教研究第94巻別冊 第80回学術大会紀要 日本宗教学会 (関西大学)</p> <p>神道宗教学会第76回 令和4年度学術大会 (國學院大學)</p> <p>第64回印度学宗教学会学術大会 (東北大学)</p> <p>宗教研究第96巻別冊 第82回学術大会紀要 日本宗教学会 (東京都立大学)</p> <p>第65回印度学宗教学会学術大会 (東北大学)</p> <p>日本学生相談学会第42回大会 (東北大学)</p> <p>宗教研究第97巻別冊 第83回学術大会紀要 日本宗教学会 (天理大学)</p> <p>神道宗教学会第78回学術大会 (國學院大學)</p> <p>第66回印度学宗教学会学術大会 (大阪経済大学)</p>
---	---	--

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本教育心理学会		1980
日本学校教育相談学会	東京都理事長(2012～現在に至る)	1990
	学会誌編集委員(2005～現在に至る)	
	第 30 回日本学校教育相談学会総会・研究大会 (東京大会)実行委員長(2018)	
日本学生相談学会		1991
日本心理学会		1994
日本認知行動療法学会		2001
日本宗教学会		2014
印度学宗教学会		2022
日本スピリチュアルケア学会		2024
日本臨床宗教師会		2024
他		

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本学術振興会	2015	平成 27 年度 JSPS 科学研究 助成事業(科学 研究費研究成 果公開促進費)	「青年期食行動異常と認知行動的セルフモニタリング」 (心理学分野 学術図書)	
日本学術振興会	2021	令和 3 (2021) JSPS 年度科学 研究助成事業 (科学研究費 研究成果公開	「宗教と認知行動的セルフモニタリングー青年期の適応を通じてー」 (心理学分野 学術図書)	

人間発達研究センター	2022	促進費) 令和4年度研究助成	「宗教と認知行動的セルフモニタリングー宗教感と適応ー」	
人間発達研究センター	2023	令和5年度研究助成	「宗教と認知行動的セルフモニタリングースピリチュアリティと感情・行動ー」	
人間学研究センター	2024	令和6年度研究助成	「宗教と認知行動的セルフモニタリングー心理的支援における宗教的役割ー」	

3. 特記事項

2003	岡山大学 医学部 非常勤講師	(現在に至る)
2006	総務省 消防庁 消防大学校 客員教授	(現在に至る)
2010	JASF 医事科学委員会委員 (臨床心理士)	(現在に至る)
2010	日本キャリア開発協会 JCDA 資格更新講座講師	(現在に至る)
2010	日本産業カウンセラー協会養成・更新講座講師	(現在に至る)
2012	日本学校教育相談学会東京都支部理事長	(現在に至る)
2014	日本学校教育相談学会 学会賞受賞 「学校教育における心理アセスメントとゴールセッティング」	
2015	教員免許状更新講習講座講師「教育の最新事情」	(2020年3月迄)
2017	東京海洋大学感謝状 (保健管理センター学生相談心理カウンセラー永年勤続)	
2017	大学基準協会 大学評価委員	(2021年3月迄)
2017	総務省 消防庁 女性吏員活躍推進アドバイザー	(現在に至る)
2017	厚生労働省国家資格キャリアコンサルタント更新講習会講師「認知行動療法」	(現在に至る)
2018	荒川区 いじめ問題対策委員会委員長	(現在に至る)
2019	目黒区 いじめ問題対策委員会委員	(現在に至る)
2019	国家資格 公認心理士現任者講習会講師 (教育領域、産業領域)	
2020	法務省 矯正研修所研修講師 (教育技法)	(現在に至る)
2020	日本スクールカウンセリング推進協議会認定委員	(現在に至る)
2021	総務省 消防庁 救助技術高度化等検討会委員	(2023年3月迄)
2022	仙台市 自殺対策連絡協議会委員	(現在に至る)
2025	関東臨床宗教師会 理事	(現在に至る)
		他 多数

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	ワタナベトモユキ 渡邊兼行	職名 人間学部	教授 心理福祉学科	取得学位 (大学名)	Ph.D. タフツ大学	(取得年月) 2001年5月
------------	------------------	------------	--------------	---------------	----------------	----------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
1. 「心理学」・「心理学概論」 3 回の間テストとそのフィードバックによる自己制御学習の促進	2017.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、中間テストを3回設け、その解答返却を1週間以内に行った。これにより、受講者の理解度の把握を助け、各自が自己の進捗を確認しながら授業に参加できるような体制を整えた。
2. 「心理学」・「心理学概論」 実験参加を評価に取り入れることによる、心理学の実証的側面の体験的理解の促進	2009.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、教員や上級生の実施する実験への参加を成績評価の一部に反映させた。これによって、心理学の実証的側面に触れる機会を設け、体験的理解を促すことを狙った。
3. 「心理学」・「心理学概論」 LMS による自学自習の促進	2013.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、授業ブログを設置し、補足資料を配布するなどして、学生の自学自習の補助とした。2016年度からは、LMSを利用して、課題の提出もweb上から可能となった。
4. 「認知心理学」・「知覚・認知心理学」 毎回の予習課題の提示	2011.4～	「認知心理学」・「知覚・認知心理学」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を課した。2016年度からは、LMSを利用して、課題の提出もweb上から可能となった。
5. 「認知心理学」・「知覚・認知心理学」 LMS による自学自習の促進	2014.4～	「認知心理学」・「知覚・認知心理学」の授業において、授業ブログを設置し、補足資料を配布するなどして、学生の自学自習の補助とした。2016年度からは、LMSを利用して、課題の提出もweb上から可能となった。
6. 「学習・言語心理学」 毎回の予習課題の提示	2020.9～	「学習・言語心理学」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を課した。

7. 「学習・言語心理学」 LMS による自学自習の促進	2020.9～	「学習・言語心理学」の授業において、LMS を利用して、授業資料の提示、予習課題の提出などを web 上から可能とし、学生の自学自習を促した。
8. 「心理学基礎論」 毎回の予習課題	2010.9～	「心理学基礎論」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を作成し、課した。2016 年度からは、LMS を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。
9. 「心理学基礎論」 LMS による自学自習の促進	2014.4～	LMS を利用して、資料の配布、課題の提出も web 上から可能となった。
10. 「心理学基礎論」 高い比重の発言点を導入	2010.9～	「心理学基礎論」の授業において、活発な授業参加と学生の表現力の向上を目指して、発言の成績に対する比重を 25%とし、積極的な発言と授業参加を促した。
11. 「心理学基礎実験Ⅰ」・「心理学実験Ⅱ」のコーディネーター	2009.4～	心理学担当教員 3 名で、小グループを担当して行う実験実習の授業において、コーディネーターとして授業のプログラム作り、教員間の調整作業に従事した。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 自ら実感する心理学 —こんなところに心理学—	共	2021.1	教育情報出版		土肥伊都子(編) 他 25 名	57-58 63-64
[論文]						
1. The self-choice effect from a multiple-cue perspective.	共著	2004.2	Psychonomic Bulletin & Review. 11	Watanabe, T., & Soraci, S. A.		168-172
翻訳						

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
1. 思い出し笑いについての予備的研究			2021.8	日本笑い学会第 28 回大会(相山女学園大学)		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本心理学会		1998
日本認知心理学会		2003
日本笑い学会		2021

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

・大学基準協会 評価委員(2022 年度)

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	カノ コ アツ コ 家 子 敦 子	職 名 人間学部	准教授 心理福祉学科	取 得 学 位 (大学名)	看護学修士 宮城大学大学院	(取得年月) 2008 年 3 月
-------------	----------------------	-------------	---------------	------------------	------------------	-------------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
介護実習(I・II・III) 講義「介護過程展開法」 講義「こころとからだのしくみ」 講義・演習「医療的ケアII」 演習「介護福祉総合演習」	2011～2022	
講義「人体の構造と機能及び疾病」	2018～現在	
演習「心理福祉基礎演習 I～III」	2016～現在	
演習「心理福祉専門演習 I～IV」	2016～現在	
演習「共通基礎演習」	2016～現在	
レクリエーション論	2022～現在	
レクリエーション演習	2022 年～現在	
コミュニケーション演習	2022 年～現在	
レクリエーション実習	2023 年～現在	
食事介助演習	2022 年～現在	

保健医療と福祉	2023年～現在	
生活と健康 D	2023年～現在	
精神保健福祉援助実習指導 II	2023年・2025年	
精神保健福祉援助実習	2023年・2025年	
ソーシャルワークの理論と方法 B	2025年	

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	共著者名(共著の場合)	編者名と当該執筆者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
[論文]						
・A 県のへき地診療所における医療提供体制の特徴	共	2023年3月	日本ルーラルナーシング学会誌第18巻	共：霜山真他6名		
・「コミュにエーション演習」の教育的効果に関する検討ー受講生のコミュニケーション・スキルの変化に着目してー	共	2022年	仙台白百合女子大学紀要27号	茂木千明・結城裕也・冢子敦子		
・「介護過程の展開」実践力育成の課題	共	2022年3月	聖和学園短期大学紀要第59号	東海林初枝他2名		
・介護過程展開様式のプロセスからみえた介護過程スキル向上のための課題ー介護過程展開法施設研修の5年間の取り組みー	共	2017	仙台白百合女子大学紀要22号	東海林初枝		
・終末期ケア論における授業材料としての「病家須知」の検討	単	2014	仙台白百合女子大学紀要18号			
[研究ノート]						
・「コミュニケーション演習の教育効果に関する検討(2)」	共	2025	仙台白百合女子大学紀要29号	茂木千明・結城裕也・冢子敦子		P59～70

<ul style="list-style-type: none"> 女子学生の生活習慣病という観点からみる生活習慣改善への関心—インターネット資料読み取り型学習から— 	単	2015	仙台白百合女子大学紀要 19号			
<p>[実践報告]</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムと連動させた地域高齢者事業が学生にもたらす効果 	共	2024年3月	公益財団法人日本レクリエーション協会 自由時間研究 第49号	仁藤喜久子・家子敦子		
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民を対象としたレクリエーション事業の実践—2023年度レクリエーション・インストラクター養成課程認定校としての取組— 	共	2024年5月	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報第3号	吉田弘美		
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民を対象としたレクリエーション事業の実践—レクリエーション・インストラクター養成課程における実習の可能性をふまえて— 	共	2023年2月	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報第2号	吉田弘美・仁藤喜久子		
<ul style="list-style-type: none"> レクリエーション・インストラクター養成課程認定校としての取り組み 	共	2022年2月	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報第1号	仁藤喜久子		
<p>[報告書]</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士養成課程 新カリキュラム教育方法の手引き(平成30年度生活困窮者就労準備支援事業等補助金社会福祉推進事業) 	共	2019年3月	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会	秋山昌枝他16名		
<ul style="list-style-type: none"> 介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業 報告書(令和元年度生活困窮者就労準備支援事業等補助金社会福祉推進事業) 	共	2020年3月	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会	荏原順子他25名		
<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書(令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業) 	共	2020年3月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	本名靖他3名		
<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書(第2報)(令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業) 	共	2021年3月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	本名靖他6名		
<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書(第3報)(令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業) 	共	2022年3月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	本名靖他6名		
<ul style="list-style-type: none"> 宮城県へき地診療所の実態と看護師の支援ニー 	共	2022年3月	東北ルーラルナーシング研究会	大塚真理子他7名		

ズ第7次宮城県地域医療計画(へき地医療)を踏まえて						
---------------------------	--	--	--	--	--	--

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
外国人のための介護福祉専門用語辞典	共	2021. 3	https://aft.kaigo-nihongo.jp/rpv/default.aspx 公益社団法人 日本介護福祉士会 国際介護人材支援チーム	白井孝子他5 名	白井孝子他3名	領域:こころとからだのしくみ

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
・施設介護職員へのキャリアアップ支援(第2報) —介護過程の実践研修前後の意識の変化より—	2013.10	第21回日本介護福祉学会
・介護職員に向けた介護過程展開シートの考案 —介護過程展開法の施設研修により—	2014.10	第12回日本介護学会

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本介護福祉士学会	2019年～2021年評議員	2003～2022
介護福祉教育学会		2004～2022
日本ルーラルナーシング学会	2019年第15回学術集会実行委員	2009～2023
日本在宅ケア学会		2012～現在
日本女性医学学会		2022～現在

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2019	令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業助成(社福振福二第44号)	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究	300万
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2020	令和2年度社会福祉振興関係調査研究事業助成(社福振福二第53号)	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究	300万
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2021	令和3年度社会福祉振興関係調査研究事業助成(社福振福二第43号)	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究	300万
宮城大学	2021	令和3年度宮城大学教員研究費(指定研究費)	宮城県へき地診療所の実態と看護師の支援ニーズ 第7次宮城県地域医療計画(へき地医療)を踏まえて	47万
日本レクリエーション協会	2023	令和5年度 課程認定校研究連絡会議研究助成事業	レクリエーション課程認定校が開催する地域交流 「健康スポレクひろば」の実践 ーレクリエーション活動が高齢者にもたらす健康効果ー	4.5万

3. 特記事項

【講演会・研修会講師】

2015年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 修講師派遣事業研修会講師

2015年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 キャリアアップ支援研修会講師

2018年 社団法人宮城県介護福祉士会主催 介護福祉士基本研修 講師

2019年 宮城県老人福祉施設協議会主催 看取りケア研修講師

2019年 社団法人宮城県介護福祉士会主催 介護福祉士ファーストステップ研修 講師

2020年 10月～2021年3月 公益財団法人社会福祉振興・試験センター令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業助成(社福振福二第44号)を受け、モデル研修会Ⅰ期を企画開催。

2021年 4月～2021年8月 公益財団法人社会福祉振興・試験センター令和2年度社会福祉振興関係調査研究事業助成(社福振福二第53号)を受け、モデル研修会Ⅱ期を企画開催。

2023年 社団法人宮城県介護福祉士会主催 介護福祉士ファーストステップ研修 講師

【事業助成】

2015年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、聖和学園短期大学と宮城県介護福祉士会共同で介護職員対象に講師派遣事業介護過程の展開研修会を開催した。

2015年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、介護職員・養成課程所属学生合同事例報告会を企画開催した。

2017年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、介護人材確保対策事業を企画開催した。

2018年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、介護人材確保対策事業を企画開催した。

【社会活動】

2014年 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会主催 介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成委員 ～2019年

2014年 聖和短期大学 非常勤講師 ～現在

2017年 仙台市健康福祉局保健高齢部介護保険課介護人材確保取り組み実行委員 ～2018年

2019年 日本ルーラルナース学会第15回学術集会実行委員 ～2020年9月

2019年 日本介護福祉学会評議員 ～2022年

2022年 宮城县委託事業 宮城県介護福祉士会介護施設コンサル事業 ～2023

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ コオリヤマ マサアキ 氏 名 郡山 昌明	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取得学位 社会福祉学修士 (大学名)東北福祉大学大学院 (取得年月) 2006年3月
------------------------------	------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 演習科目において、臨床場面でより具体的な資料を用いて理解を深める工夫をした。	2003.4～	演習は、使用テキストを中心にその事例を用いて行っているが、学生がイメージできない状況であった。 2003.4 に本学に就任して以来、臨床での経験を活かし、社会資源等の資料をより現実的なものを学生に提供し、説明を加えて行った。
2. 各授業において「振り返り」票を用いて、学生の講義に対する理解と自らの【振り返り】を記載して次回の講義内容へ反映させた。	2003.4～	授業において「学習の振り返り」票を配付した。その中で学習の課題、授業への参加、感想と提案、イラスト(授業で受けた印象など)を記載してもらい、個々の学生の疑問、到達度、意欲などを把握して次回の授業の改善や個々の学生への指導材料とした。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] [論文] 1. 就労継続支援B型事業所における事業内容に関する研究—宮城県内の就労継続支援B型事業所を中心に—	単著	2021.03	仙台白百合女子大学紀要 第25号			47-61

2. 【資料】 1. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う遠隔授業が学生の精神的健康に及ぼす影響—仙台白百合女子大学におけるパネル調査から—	共著	2021. 03	仙台白百合女子大学紀要	結城裕也・郡山昌明・渡辺兼行	119-137
--	----	----------	-------------	----------------	---------

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本医療社会福祉学会 日本社会福祉学会 日本精神保健福祉学会 東北社会福祉研究会		1986.4～ 2005～ 2015～ 2020～

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (千円)

--	--	--	--	--

3. 特記事項

東北こども福祉専門学院 非常勤講師 2013～
仙台徳洲看護専門学校 非常勤講師 2017～
仙台大学非常勤講師 2024～
自衛隊仙台病院准看護学院 看護専門科目「精神看護」のうち「心の働きと精神保健」「精神保健の歩み」「精神保健福祉の現状と課題」担当講師 2025. 03. 07
及び 03. 21
社会福祉法人 ゆうゆう舎 理事 2009. 4～
NPO 法人雲母倶楽部 理事

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ナカジマ ミドリ 氏 名 中嶋 みどり	職 名 准教授 人間学部 心理福祉 学科	取 得 学 位 博士(心理学) (大学名) 広島大学 (取得年月) 2005 年 3 月
-----------------------------	-------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
学生の理解度を知る工夫	2012 年 4 月～	<ul style="list-style-type: none"> ・リアクション・ペーパーの活用を以下の点から利用している。①学生の理解度を知り、それに合わせ、質問、誤解をフォローする説明、②自身の考えを比較的短時間で言語化する学習の機会、③有益なリアクションペーパーの内容を抽出し、配布することで、多様な学生の考え、感覚を知る機会としての学びである。平常点として評価に反映させている。 ・受講人数によるが、1人1人が心理臨床現場でどのように考え、行動・応答するかをホワイトボード, Jamboard 等、個人の回答やロールプレイの実践をもとにした発見型学習とマニュアルによらない実践的な事例に基づく授業を行っている。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数

--	--	--	--	--	--	--

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
①被爆地を離れた被爆者の伝承活動に関する探索的調査	2022年3月	オンライン
② The exploratory study of testimony of atomic bombing experience on Hibakusha who moved from Hiroshima and Nagasaki.	2023年7月	Brighton, UK(ブライトンセンター)
③	2024年8月	京都テルサ

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本心理臨床学会		1998年
日本子ども虐待防止学会		2000年
日本発達心理学会		2000年
日本児童青年精神医学会		2014年

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本学術振興会	2020年度～ 2023年度		原爆被害者の人生にわたる心の支え-被爆地を離れた人の一生も含めた検討-(代表者)	1,690,000

日本学術振興会	2024年度～ 2028年度		被爆者の体験の継承における工夫と博物館における教育普及活動に関する研究 (代表者)	3,510,000
日本学術振興会	2024年度～ 2026年度		美術館における絵画鑑賞の教育的意義の解明と学習者支援の方略(研究分担者、 代表者高橋満)	4,550,000

3. 特記事項

--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ モテギチアキ 氏 名 茂木千明	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取 得 学 位 博士(学術) (大学名) 東北学院大学 (取得年月) 2004年3月
-------------------------	------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 「紙上ソーシャルアトム」を活用した授業の実施	2013.4～	「心理福祉入門」の授業の中で、学生の自己理解に役立てることを目的に実施。
2. 「心理福祉総合演習Ⅱ」「心理福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」(2年基礎ゼミ) フィールドワーク研究指導・報告書作成・ 学外の調査協力者への報告書の送付	2015.4～	2015年度:「個人としての私☆職業人としての私:女子大生の考える『就活メイク &職業別メイク』」 2016年度:「法学部でない私たちが『18歳選挙権』について考えた」 2018年度:「小学生の放課後の過ごし方・遊び場」 2019年度:「高齢ドライバーの実態と対策 ～若者に「できること」「伝えたいこと」 「知ってほしいこと」とは～」 2021年度:「コロナ禍における消費傾向の変化と課題 ～新しい生活様式の中で より快適に過ごすために～」 2023年度:「SNS利用とトラブルの傾向と対策 ～10代の若者によるTwitterの 活用増加に着目して～」
3. 「コミュニケーション演習」において ENDCORESを用いて教育効果 を測定	2022.4～	コミュニケーション・スキルについて授業回ごとに ENDCORESで測定し、その変化 を検討。学生自身も自分の 15回授業を通しての変化を検討することで、コミュニ ケーション能力の向上に役立てることを目的としている。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
[論文]						

1. 児童養護施設の子どもが作成した生活関係図： 家族関係単純図式投影法を応用して	単著	2015.6	人間の発達(仙台白百合女子 大学人間発達研究センター紀 要)第10号			29-36 頁
2. 「コミュニケーション演習」の教育効果に関する検 討：受講生のコミュニケーション・スキルの変化に着 目して	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第 27号	結城裕也・家 子敦子		15-25 頁
3. 「コミュニケーション演習」の教育効果に関する検 討(2)：コミュニケーションの表出系スキルの変化に 着目して	共著	2025.3	仙台白百合女子大学紀要 第 29号	結城裕也・家 子敦子		59-70 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 女子大生にとって大切な・身近なモノや人：紙上ソーシャルアトムを活用して	2012.11	日本精神衛生学会第28回大会(東京農工大)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本家族心理学会		1993
日本心理臨床学会		1996
日本精神衛生学会		1996
日本カウンセリング学会		1999
日本学生相談学会		2008

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

[学内の活動]

1. 学生相談室 カウンセラー(2000.10～現在)
2. 学生相談室 室長(学生相談室支援委員会委員長兼務)(2011.4～2013.10)
3. 学修支援センター 学生相談室 主任(2015.4～2020.3)

[学外の活動]

1. 1999年度(199.9.9):日本心理臨床学会第18回大会 心理臨床ワークショップ「心理劇的ロールプレイングの招待」講師(会場:文教大学)
2. 2003～2010年度:「家族相談士」養成講座(仙台会場)講師 担当「家族アセスメント」
3. 2009年度(200.9.9.27):「家族相談士」継続研修講座 講師 テーマ「カウンセリングに活かすアセスメント技法」
4. 2009年度(2009.5.16 & 10.31):公立保育所合同業務研修(太白保育所・八木山保育所) 講師 講義および事例検討
5. 2012～2013年度:復興大学復興人材育成教育コース「復興の思想」講師 担当「復興の心理」(2コマ)(2012.5.12 & 5.19)(2013.5.11 & 5.18)
6. 2012年度(2012.12.19):のびすく泉中央「育ちの楽校」講師 テーマ「気になる!子どものしつけについて～2、3歳児への親の関わり」
7. 2012年度(2013.2.16):福島県北精神保健福祉士会×医療ソーシャルワーカー協会×社会福祉士会(合同研修会) 講師 テーマ「支援者の役割★私のキモチ」
8. 2013～2018年度(2013.7～2019.6):宮城県臨床心理士会 倫理委員
9. 2016年度(2016.11.19):宇都宮家庭裁判所「家裁調査官研修」講師 テーマ「家族関係単純図式投影法の活用:家族アセスメントの視点から」
10. 2017年度(2017.9.21):宮城子ども総合センター「現任保育士研修」講師 テーマ「保護者や保育士間のコミュニケーションについて」
11. 2020年度～現在:仙台いのちの電話 専門委員
 - ・(2020.11.14) ボランティア相談員養成講座 講師 担当「カウンセリング理論Ⅰ・Ⅱ」
 - ・(2021.7.25) 第8期ボランティアリーダー養成講座 講師 担当「発達心理学からみる近年のライフスタイルにおける諸問題」
 - ・(2022.2.12) ボランティア相談員養成講座 講師 担当「カウンセリング理論Ⅰ・Ⅱ」
 - ・(2023.7.1) 第49期ボランティア相談員養成講座 講師 担当「家族の心理」
 - ・(2023.11.26) 第9期ボランティアリーダー養成講座 講師 担当「家族心理学身にみる近年の諸問題」
 - ・(2024.4.28) 仙台いのちの電話 2024年第1回公開講座 講師 「家族との関係を描くー家族理解と家族レジリエンスー」
 - ・(2024.6.1) 第50期ボランティア相談員養成講座 講師 担当「家族の心理」

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ユウキ ヒロヤ 氏 名 結城 裕也	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取 得 学 位 修士(社会学) (大学名) 東洋大学 (取得年月) 2005年3月
---------------------------	------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 学習到達テストの実施	2009.4～2014.3	生涯発達心理学, 心理測定法の講義等に関連して, 隔週で学習到達テストの実施しており, 学生各人の学習の到達の程度を確認した。学習レベルが未達の場合は, 個人面談を実施し, 今後の改善点等を学生と話し合い学習成果を高める取り組みを行った。このような取り組みを続けた結果, 学生の学習レベルが飛躍的に向上し, 国家試験の成績も期待以上の結果を得ることができた。
2. 授業関連動画の視聴	2009.4～	社会心理学では, これまでに実施された古典的な実験を, 当時の映像を振り返りながら解説した。社会心理学の実験の中には手続きが複雑なものも多く含まれるため, 映像によって理解が深まることが期待される。また, 生涯発達心理学では, 乳児や幼児の行動を映像で視聴することで, より人間の原始的な側面を理解するのに役立つことが期待される。いずれの映像においても, 学生からのフィードバックが大変評価が高いものであった。
3. グループ内討議の実施	2013.4～2016.3	心理学実験において, 想定した結果が得られたか否かに関わらず, どのような場合に想定した結果が得られない可能性があるのかをグループ内で討議し, 各グループで発表を行った。これらの取り組みによって, 教員側が一方向的に実験をやらせるのではなく, 結果に対して各人がどのような

<p>4. 双方向型授業の実施</p>	<p>2013.4～2016.3</p>	<p>解釈を行うのかというクリティカル・シンキングを養うことを目指すものであった。このような取り組みによって、why という思考を持たせることに成功した。</p> <p>心理学実験調査実習 1 の講義で、「大きさの恒常性」を題材とした実験実習を担当した。事前に仮説を立てて実験を行い、得られたデータについて解析を行った。その結果について、学生と議論しながら、結果のまとめと考察、それらを踏まえたレポート執筆方法について詳細に説明を行った。なお、レポートの体裁、提出時間等、何度も指導を行い、単なるレポート課題にとどまらず社会に出るための準備としての指導も行った。</p>
<p>5. 双方向型授業の実施</p>	<p>2016.4～</p>	<p>少人数制のゼミ制度で、主に 8 名～10 名の構成員で双方向型授業を実施している。本学科の「地域に貢献する人材の育成」を目的に、函館地域で問題になっている事象についてフィールドワークを通じて明らかにし、その現象に対して社会心理学、産業・組織心理学的視点から、どのようなアプローチで解決へと導くのかを時間を掛けて検討している。なお、データの取得は、地元の中小企業を中心に、インタビュー調査、質問紙調査を実施し、結果を年度末に企業から一般市民へフィードバックしている。</p>
<p>6. プレゼンテーション相互評価の実施</p>	<p>2019.4～</p>	<p>心理学基礎演習 I (論文講読)において、発表学生が PowerPoint を使用してプレゼンテーションをする際に、発表者以外が発表者のプレゼンテーションを「画面」「説明」の枠組みで、5 段階で評価をさせている。また、発表に関して「特に評価したい点と理由」、「改善すればもっと良くなる点」、「疑問点、もっと議論したい点」などの自由記述項目を設け、次週の授業の最初に全員の前で評価をフィードバックしている。それにより、自分のプレゼンテーションが他者からどのように評価されているのかを知ることができ、改善点も明確にできると考えてい</p>

る。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
1. ジャーナリストの惨事ストレス	共著	2009.12	現代人文社		報道人ストレス研究会 (編) 執筆者:12名	pp.83-89.
2. 心理学基礎実験を学ぶ—データ収集からレポート執筆まで—	共著	2016.3	北樹出版		大和田智文, 鈴木公 啓(編者) 執筆者:17名	pp.20-29.
3. 保育者の保護者苦情対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討	共著	2020.3	函館大谷短期大学紀要 第34号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.11-15.
4. 保育場面における保護者の苦情内容と苦情に対する保護者の認知:KH Coderを用いた分析	共著	2020.9	人間発達研究センター紀要 人間の発達 第14号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp.69-76.
5. 若い保育者が保護者苦情対応に関するネガティブな精神状態を軽減するための認知方略(1)	共著	2021.3	函館大谷短期大学紀要 第35号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.1-8.
6. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う遠隔授業が学生の心的健康に及ぼす影響	共著	2021.3	仙台白百合女子大学紀要 第25号	結城裕也・郡山昌明・渡邊兼行		pp.119-137.
7. 新卒5年目以下の保育者が保護者苦情対応によるストレスを軽減するための認知方略	共著	2022.3	函館大谷短期大学紀要 第36号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.1-8.
8. 「職業意識」の高い保育者とは?—保育者を対象としたテキストマイニングによる分析から—	共著	2022.3	仙台白百合女子大学紀要 第26号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp. 17-32.

9. 試作版「保育者の職業意識尺度」の作成	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第27号	結城裕也・藤村敦・柴田亮	pp.7-13.
10. 「コミュニケーション演習」の教育効果に関する検討	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第27号	茂木千明・結城裕也・家子敦子	pp.15-25.
11. 若い保育者が保護者苦情対応をする際のストレス源, 対処行動及びストレス軽減方略のバリエーションの検討	共著	2024.3	函館大谷短期大学紀要 第38号	藤村敦・結城裕也・柴田亮	pp.1-11.
12. 保育者が保護者苦情対応をする際のストレス源, 対処行動及びストレス軽減方略の年代による様相の相違	共著	2025.3	函館大谷短期大学紀要 第39号	藤村敦・結城裕也・柴田亮	pp.1-16.
13. 「保育者の職業意識尺度」の信頼性と妥当性の検討	共著	2025.3	人間学研究センター紀要	結城裕也・藤村敦・柴田亮	pp.1-10.

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
1. 複合災害がもたらした「喪失」: 浪江町民への面接調査から			2013.11	日本社会心理学会第54回大会発表論文集,(沖縄国際大学)		
2. 感情労働及び感情労働後の対処方略と心身反応との関連			2014.7	日本社会心理学会第55回大会発表論文集,(北海道大学)		
3. Effects of emotional labour styles on the sense of mental and physical burden -coping strategies as parameters-			2015.8	10th Biennial conference of asian association of social psychology (Cebu, Phillipines)		
4. 福島原発事故避難者の現状とウェルビーイング(1)			2015.8	日本心理学会第79回大会発表論文集,(名古屋国際会議場)		

5. 福島原発事故避難者の現状とウェルビーイング(2)	2015.8	日本心理学会第79回大会発表論文集,(名古屋国際会議場)
6. 保育者の保護者対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討	2018.10	学校教育学会第24回年会発表論文集,(北海道教育大学)
7. 保育者の保護者苦情対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討—SCATを用いた20代保育者へのインタビュー分析から	2019.8	日本学校心理士会2019年度大会(聖徳大学)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本心理学会	事務局幹事(2010.4-2013.3)	2003.4
日本社会心理学会		2004.4
日本感情心理学会		2005.4
日本パーソナリティ心理学会		2005.4

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)
仙台白百合女子大学	2019	人間発達研究センター助成金	保育者の精神的負荷を軽減しうる保護者からの苦情認知方略の類型化	165,000
仙台白百合女子大学	2020	人間発達研究センター助成金	苦情に対する対処可能性と苦情処理結果の原因帰属が保育者の精神的健康に及ぼす影響	239,200
科学研究費助成事業	2021-2025	基盤研究(C)・研究分担者	保育者の保護者苦情対応に関するレジリエンス向上プログラムの開発	900,000
仙台白百合女子大学	2021	人間発達研究センター助成金	保育者の職業意識尺度の開発	196,600
仙台白百合女子大学	2023	人間学研究センター助成金	「保育者の職業意識尺度」の信頼性と妥当性の検討	266,000
仙台白百合女子大学	2024	人間学研究センター助成金	保育者の苦情内容とその対処および職業意識が保育者の精神状態に及ぼす影響	370,000

3. 特記事項

(講演会・講習会等)

1. 三八漁業士会研修会(講師)「テーマ:北浜ほっき貝販売促進のための方策」(2018.2)
2. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(2019.10)
3. 出張公開講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(ホテル佐勤)(2021.9)
4. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「説得の心理学—人が動かされるメカニズム—」(2021.10)
5. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「感情労働で苦しんでいませんか?—よりよく働くためのヒントを探る—」(2022.10)
6. 多賀城大学講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(2023.5)
7. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「やればできる!」って本当?—心理学研究が解き明かす脱根性論—」(2023.10)
8. 岩切老荘大学講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(2023.5)
9. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「「データ」のトリックを見抜く方法—あなたは騙されていませんか?—」

(社会的活動)

1. FM いるか いきいきライフスクール(解説)「テーマ:心理学実験から人を科学する」(2016.12)
2. FM いるか いきいきライフスクール(解説)「テーマ:心理学で映画を読み解く」(2017.12)
3. キャンパスコンソーシアム函館 アカデミックリンクWG 副座長 (2017.4-2018.3)

(非常勤講師)

1. 仙台徳洲看護専門学校非常勤講師 (2020.4-)
2. 放送大学宮城学習センター非常勤講師(2023.4-)
3. 東京未来大学通信教育部非常勤講師(2024.4-)
4. 仙台医療センター附属仙台看護助産学校非常勤講師(2025.4-)

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ タカタ ヨウヘイ 氏 名 高田 洋平	職 名 講師 人間学部 心理福祉 学科	取 得 学 位 博士(地域研究) (大学名) 京都大学 (取得年月) 2017年 3月
----------------------------	------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 教育内容・方法の工夫		
・アクティブ・ラーニングの導入	2019年4月～ 現在	授業にディスカッション項目を設けるなど、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れ、学生の表現力や議論のための力を高める双方向の授業を行っている。
・記入式レジユメの導入	2018年4月～ 現在	学生の授業に対する能動性を引き出すため、重要な語句や概念の一部については空欄とし、授業中に自身で記入を促すような記入式レジユメを導入した。
・外国人技能実習生との料理交流会・クローズドライブの実施	2024年12月	ゼミ活動として外国人技能実習生との料理交流会を行い、いらなくなった冬服を実習生に寄贈する活動(「クローズ・ドライブ」)を行い、学生の社会貢献活動、異文化コミュニケーション能力、各種の実践力向上を目指した。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
・『学びの技法(文書読解と作成)』『日本福祉大学テキスト』	2018年3月	学生の初年次科目「学びの技法」の開発にともない、そこで使用する教科書を作成した。「第7講 クリティカルシンキング(批判的読解)」、「第9講 読解と要約」を担当し、学生の読解力をはじめとするスタディ・スキルを高めることを目的とした。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 1.「第4章 ネパールの社会福祉」	共著	2020年3月	『新 世界の社会福祉 第9巻 南アジア』旬報社。		日下部尚徳、5名	127-159頁
2.「第40章 ようやく始まった社会保障制度の構築」	共著	2020年3月	『現代ネパールを知るための60 章』明石書店。		日本ネパール協会、 60名	246-250頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1.ネパールのストリート政策と運動	2020年10月4日	南アジア学会第33回全国大会(京都大学)(ズーム開催)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
国際開発学会 日本社会福祉学会 日本文化人類学会 南アジア学会		2020年4月 2010年4月 2010年4月 2010年4月

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
1.日本学術振興会	2020年度～ 2022年度	科研費(若手研究)	ネパールの貧困層にとってのストリート空間と共同性	
2.日本福祉大学	2019年度	助教研究特別 支援<A枠>	ネパールの貧困層とストリート空間	

3. 特記事項

--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	ミウラ カズオ 三浦 和夫	職名 人間学部	講師 心理福祉学科	取得学位 (大学名)	博士(社会福祉学) 東北福祉大学	(取得年月) 2017年 3月
------------	------------------	------------	--------------	---------------	---------------------	-----------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
(1) 介護実習事例報告集の作成と介護実習事例報告会の実施	2013年度～2017年度	・最終段階の介護実習終了後は、実習中受け持った利用者の介護過程の振り返りを行い、介護実習事例報告集としてまとめている。また、介護実習事例報告会に向けて発表等の準備を行い、プレゼンテーション方法の向上につなげた。
(2) 心理福祉実習報告集の作成	2013年度～2020年度	・心理福祉実習終了後は、実習内容をもとに報告書を作成し、心理福祉実習報告集としてまとめた。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
<著書> <論文> ・「地域包括ケアシステムにおける介護老人福祉施設の役割に関する研究 ―施設長へのインタビューを通して―」	単	2021年 3月	仙台白百合女子大学紀要第25号			89-98

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
① 「地域包括ケアシステムにおける介護老人福祉施設の役割に関する研究」	2020年10月	第28回日本介護福祉学会
② 「認知症の妻を介護する夫介護者の現状と課題について」	2024年8月	第32回日本介護福祉学会

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
① 日本認知症ケア学会		2007年
② 日本介護福祉学会		2007年
③ 日本感性福祉学会		2007年
④ 日本社会福祉学会		2008年
⑤ 日本老年社会科学会		2009年
⑥ 日本地域福祉学会		2020年

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本学術振興会	2021-2024	令和3年度 科学研究費助成事業 (若手研究)	「認知症の妻を介護する夫介護者の特性に関する基礎的研究」	2,210,000円

3. 特記事項

--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ヨシダ ヒロミ 氏 名 吉 田 弘 美	職 名 講師 人間学部 心理福祉学科	取 得 学 位 修士(健康福祉) (大学名) 東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 (取得年月) 2005 年 3 月
---------------------------------------	------------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
①レクリエーション実習	2024・4 ～2025・3	主に学外事業を担当し、仙台市泉区中央市民センターの活動「あそびの天国」やレクリエーション・インストラクター認定校の交流会「まじら祭」等の企画や運営にかかわり学生指導にあたる。特に「あそびの天国」では、レクリエーション・インストラクター養成課程 3 年生がリーダーシップをとり、大学近隣の小中高生と連携を図りながら企画・運営にかかわる。地域活動に大いに貢献した。
②社会福祉士 2021 年度カリキュラムにおける実習教育研究会の実施	2018.4～	令和 5 年度より開始される「新カリ実習」へ向けて、宮城県内の養成校・社会福祉士会・実習指導者からメンバーを構成し、実習の枠組みの共有や実習教育・指導のあり方を検討することを目的に研究会を発足した。月 1 回(第 1 土曜)を定例会として、情報交換や共同研究を行っている。
③「心理福祉基礎演習 I II III IV」ゼミ研究成果報告会の開催	2018.4～	初年次教育の学部共通科目「共通演習」を発展させ、「心理福祉基礎演習」で身近な地域課題にかかわるフィールドワークに向けて指導している。また、学科基演習の成果発表の機会として、白百合祭ならびに公開講座を企画運営する。学生の主体性・協調性・プレゼンテーション力を高めると同時に、学科の教育の特色をアピールしている。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数

〔実践報告〕 「地域住民を対象としたレクリエーション事業の 実践—2023 年度レクリエーション・インストラクタ ー養成課程認定校としての取組—」	共	2024・3	教職課程研究センタ報,2023 年度,第3号,	家子敦子 仁藤喜久子		33-38
〔論文〕 「介護過程の展開」実践力育成の課題	共	2022・3	聖和学園短期大学紀要 第 59 号	家子敦子 東海林初枝		117-135
〔報告書〕 「介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究 報告書」第 3 報	共	2022・3	社会福祉振興関係調査研究 事業の助成研究 社福振福 二第 44 号	本名 靖 東海林初枝 家子敦子 久田はづき 山川ひかり		1-68
〔報告書〕 「介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究 報告書」第 2 報	共	2021・3	社会福祉振興関係調査研究 事業の助成研究 社福振福 二第 44 号	本名 靖 東海林初枝 家子敦子 久田はづき 山川ひかり		1-53
〔報告書〕 「介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究 報告書」第 1 報	共	2020・3	社会福祉振興関係調査研究 事業の助成研究 社福振福 二第 44 号	本名 靖 東海林初枝 家子敦子		1-63
〔論文〕 「環境因子から見た介護福祉士養成の現状」	単	2017.3	仙台白百合女子大学紀要 第 21 号			87-97
〔報告書〕 東日本大震災における支援物資としての介護機器 の支援状況に関する検証研究	共	2013.5	第 23 回フランスベッド・メディカ ルホームケア研究・助成財団 報告書	吉田泰三 樫本堅一 他 1 名		1-30

[研究ノート] 初めての施設実習で遭遇した気がかりと感じた場 面の分析～第1段階介護実習のリアクションペー パーより～	共	2011.1	仙台白百合女子大学 紀要 第15号	家子敦子		89-96
[資料] 介護福祉士のための福祉用具評価ツールに関す る一考察	単	2011.1	仙台白百合女子大学 紀要 第15号			97-107

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
(共) 東北6県社会福祉士会における実習指導者養成体制の現状と課題 ー各県会長・委員長へのインタビュー調査からー	2024.7	日本社会福祉学会 東北部会第23回研究大会報告要旨集
(共) 熊本地震における「支援物資としての福祉用具」に関する研究	2017.8	第32回リハ工学カンファレンス(兵庫県神戸市)
(共) 介護職員に向けた介護過程展開シートの考案 ー介護過程展開法の施設研修の実施よりー	2014.10	第12回日本介護学会(山口)
(共) 施設介護職員へのキャリアアップ支援[第3報] ー介護過程実践研修前後の意識の変化ー	2013.10	第21回日本介護福祉学会大会(熊本)
(共) 「施設介護職員へのキャリアアップ支援」 ー現場の実事例を用いた介護過程の実際ー	2012.9	第20回日本介護福祉学会大会(京都)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本介護福祉教育学会		2001.4
日本介護福祉学会		2002.4
日本介護学会		2004.3
日本社会福祉学会		2005.3
日本行動療法学会		2009.6

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
公益財団法人 日本レクリエーション協会	2023	令和5年度研究助成事業	レクリエーション課程認定校が開催する地域交流「健康スポレクひろば」の実践—レクリエーション活動が高齢者にもたらす健康効果—	4.5万円
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2019	社会福祉振興関係調査研究事業の助成研究 社福振福二第44号	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究(Ⅰ期)	300万円
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2020		介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究(Ⅱ期)	300万円
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2021		介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究(Ⅲ期)	298万円

3. 特記事項

[非常勤講師]

・白百合学園高等学校 2・3年生「福祉総合」2018・12-2019・1、2023・11

[研修会講師など]

・平成26年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修会講師(「介護過程の理論と指導方法<演習>」担当) 2014・7

・令和5年度公益社団法人仙台市老人クラブ連合会・脳の健康づくり研修会講師 2025・1

[教員講習会の受講状況]

・社会福祉士・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会修了 2019・8・

・介護技術講習会主任指導者 2008.9

・介護教員講習会修了(厚生労働省)2007・10

[委員等]

・宮城県「ケアスタッフサポートセンター」相談員 2023・7～現在

・みやぎ介護人材を育む取組宣言認証制度(第2段階)確認調査員 2020・4～2024・3

・社会福祉法人仙台白百合会評議員 2017・4～現在

・第26回介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験委員 2014・3

・平成25年度仙台市泉区介護認定審査会委員 2013・4～2017・3、2019.4～現在

・平成23年度介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成協力員 2011・7

[社会貢献など]

・いずみ絆プロジェクト事業「しらゆり健康倶楽部」2023・6～2025・12

・平成24年度被災者就労支援事業 2級訪問介護員養成研修 2013・1、2013・2

・被災者就労支援事業 2級訪問介護員養成研修 「高齢者、障害者の心理」、「相談援助とケア計画の方法」、「実習前指導」の講義担当 2012・2

・宮城県介護福祉士会の要請により、東日本大震災時の避難所での夜間介護支援に従事する。2011・3、2011・5

[宮城県介護従事者人材確保対策事業]

・2018年度 宮城県介護従事者人材確保対策事業入学促進事業(94万円)

・2017年度 宮城県介護従事者人材確保対策事業入学促進事業(530万円)

[学内活動]

・ハラスメント相談員 2024・4～現在

・仙台白百合女子大学後援会理事 2019・4～2020・3

・2019年度学生生活実態調査の実施、報告書作成(教学委員会副委員長)2019・4～2020・3

・白百合カフェ(認知症カフェ)の開催 2016・3～2017・3

・2014年度仙台白百合女子大学出張講座 2014・6(三戸高校)、2014・11(石巻北高校)

・サークル「チアリーダー一部 VELVETS 顧問 2010・4～ (現在、休部中)